

東京慈恵会医科大学外科 専門修得コース

プログラム責任者 大木 隆生

プログラムの特徴 (= subspecialty 領域との連続性も含めて)

本プログラムは、東京慈恵会医科大学附属病院を基幹施設として、心臓外科、血管外科、肝胆膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の各分野に指導医・専門医を有し、附属4病院、国・公立病院、社会保険病院、私立病院など多彩な連携施設にて、最先端医療、common disease、地域医療をもカバーしている。また、上記8診療部を満遍なく経験でき、すべての2階建て部分と連続・連携している。給与面では3年間の平均年収約1,000万円を担保している。本プログラム修了者は、優先的に入局資格が得られ、入局後は大学院進学・留学も可能である。慈恵医大外科は大講座制をとっているため、多くの仲間と切磋琢磨できる環境にある。専攻医が将来志向する各 subspecialty 領域については、190名の指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができる。

各疾患班別 subspecialty 領域について

- ・心臓外科：新生児、未熟児を含む小児から成人、高齢者までの広範囲の心臓血管疾患を対象に、循環器内科、小児科など他の診療科と密接な連携のもと、診断及び治療を行っている。そのため、先天性心奇形から後天性弁膜症、冠動脈疾患、大動脈疾患まで様々な疾患を経験することが可能である。
- ・血管外科：本邦で有数の症例数を誇り、心臓と脳血管を除く、頸動脈から下腿動脈まで広範囲を対象とし、外科手術、ステント術を含め慈恵医大オンリーの最先端手術を多数施行している。全ての外科レジデントが外科専門医に必要な心臓・大血管10例、末梢血管10例を経験できるようプログラムを作成している。
- ・肝胆膵外科：肝胆膵脾の良性・悪性疾患の診療を行い、肝胆膵外科手術（生体肝移植を含む）の適応、周術期管理を学ぶとともに、消化器外科専門医、肝胆膵外科高度技術専門医、内視鏡外科技術認定医などの取得を目指す。
- ・上部・下部消化管外科：上部下部消化管班ともに各種癌取扱い規約、治療ガイドラインに則した適応を遵守しながら手術に取り組んでおり、腹腔鏡手術も積極的に行っている。また、外科学会専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医などの取得を目指し、各施設においてレジデントにも積極的に術者を行わせている。
- ・呼吸器外科：気管支鏡や超音波気管支鏡検査を用いた診断及び治療を行っているので、同技術を習得できる。手術に関しては積極的に胸腔鏡で行っており、さらに新たな手術の研究開発に取り組み、腫瘍学的な基礎知識を併せ持つ癌治療のエキスパートとしての呼吸器外科医の育成を目指している。
- ・小児外科：専門習得コース1,2年目で成人の鼠径ヘルニア・虫垂炎の術者を経験した後に、3年目で小児外科疾患の多い施設で研修し、鼠径ヘルニア・停留精巣などの術者を行わせる。また、小児での超音波検査・造影検査などの技術を習得する。
- ・乳腺内分泌外科：乳癌・甲状腺疾患の診断及び治療を自ら担当し、ほぼ全例の手術に参加可能である。マンモグラフィ読影認定医取得を目指すとともに、超音波検査技術の習得および補助療法または再発治療としての化学療法を学ぶことができる。

【基幹施設】 東京慈恵会医科大学附属病院

【連携施設】 葛飾医療センター（分院・葛飾区）、第三病院（分院・狛江市）、柏病院（分院・千葉県）、富士市立中央病院（静岡県）、町田市民病院（町田市）、川口市立医療センター（埼玉県）、独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院（埼玉県）、埼玉県立小児医療センター（埼玉県）、佐久総合病院佐久医療センター（長野県）、心臓血管研究所付属病院（港区）、榊原記念病院（港区）等

【研修期間】 3年間

【予定募集人数】 25名（プログラム申請時）

到達目標（＝専門研修プログラムとの関連も含めて）

1) 日本外科学会専門医審査に合格する必要な知識と技能を習得すること。2) 各種外科専門医（日本消化器外科学会専門医、日本心臓血管外科学会専門医、日本小児外科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、日本乳癌学会専門医）取得に必要な基本的知識と技能を習得すること。3) 外科医として必要な態度、習慣を身につけること。4) 現在外科学で未解決な問題（課題）を認識して、それ等を解決するための基本的な問題解決能力を習得すること。

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がるクニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につける。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表する。さらに得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につける。

プログラムの例示（＝専門研修プログラムとの関連も含めて）

【Subspecialty 重点コース】

レジデント 1～2 年目：一般外科と救急診療の技能習得を主眼とするため、研修施設は学外施設（国公立病院・社会保険病院・市立病院）ならびに葛飾医療センター、第三病院、柏病院とする。6ヶ月を1単位として4単位の研修を行うが、2-3単位は学外施設、他の1-2単位は葛飾医療センター外科、第三病院外科、柏病院外科、救急診療部とする。ただし、学外施設は12か月勤務を原則とする。心臓外科は、柏病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、富士市立中央病院での研修とする。

レジデント 3 年目：志望している診療部または将来専門（研究）としたい領域への導入研修 bridge course と位置づけられる。具体的には、血管外科、肝胆膵外科、消化管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の中から選択により研修を行う。また、希望者は外科関連部門（eg. 内視鏡部、救急部、麻酔部、病院病理部等）での研修も可能である。心臓外科は基幹病院での研修とし、手術に焦点をあてつつ、患者を中心に考えた診断、治療、管理に深く接することにより、幅広い循環器疾患を経験、理解する。

指導医数・症例数・手術件数等（＝研修環境のPRポイント等）

【指導医数】190人

【手術件数】3年間（2012年から2014年）のNCD登録数：50,388件

プログラムに関する問合せ先（＝担当医師名、電話番号、メールアドレス等）

外科学講座 矢野 文章（ヤノ アキ） 医局：内線 3403 E-メールアドレス：f-yano@jikei.ac.jp